

浦河町社協だより

ゆうなぎ

No.30



～浦河町老人スポーツ大会／白熱の競技風景～

平成 22 年 9 月発行
社会福祉法人浦河町社会福祉協議会

《 本号の内容 》

◇平成21年度事業報告	・・・	2～3 ページ
◇平成22年度事業計画	・・・	4 ページ
◇社協が取り組む交通安全の推進	・・・	5 ページ
◇関連情報コーナー	・・・	6～7 ページ
◇愛情銀行へのご寄付	・・・	8 ページ

～この社協だよりは、共同募金の配分金の一部が使われています～

平成21年度事業報告

□法人の運営（会務）

- | | |
|------------|----|
| 1) 理事会の開催 | 6回 |
| 2) 評議員会の開催 | 4回 |
| 3) 定例監査の実施 | 4回 |

□障害福祉サービスの実施（障害者自立支援）

- | | |
|---------|------|
| 1) 居宅介護 | |
| ・利用実人員 | 16人 |
| ・訪問延回数 | 972回 |

□要援護世帯の把握と関係機関・団体との連携

- 1) 世帯調査と世帯表の作成
（独居高齢者名簿及び高齢者夫婦世帯名簿）
- 2) 民生委員や自治会福祉部等との連携
- 3) 地域包括支援センター主催のケアマネジャー会議及びケアマネジャー会議への参加
- 4) その他

□高齢者生活支援等サービス事業の実施

- 1) 給食サービス事業（受託事業）

・利用者数	29人
・延配食数	1806回
- 2) 移送サービス事業（受託事業）

・利用者数（一般移送）	1人
・延利用者数（一般移送）	17人
・利用者数（人工透析利用者）	8人
・延利用者数	1160人
- 3) 電話サービス事業（受託事業）

・利用者数	26人
・延通話回数	894回
- 4) 高齢者等電話サービス事業（独自事業）

・利用者数	5人
・延通話回数	172回
- 5) 軽度生活支援事業（受託事業）

・利用実人員	13人
・訪問延回数	216回

□小地域ネットワーク事業

- 1) 自治会福祉部の設置促進
52自治会で設置（21年度末現在）
- 2) 在宅福祉会議の開催 1回

□地域福祉情報の提供及び相談事業

- 1) 社協だより「ゆうなぎ」の発行 2回
- 2) 心配ごと相談所の設置

□介護保険サービス事業の実施

- 1) 訪問介護事業（ホームヘルパー）

・利用実人員	145人
（介護予防）	46人
・訪問延回数	10484回
（介護予防）	2465回
- 2) 通所介護事業（デイサービス）

・利用実人員	70人
（介護予防）	24人
・利用延人員	5133人
（介護予防）	1322人
・開設日数	308日
- 3) 訪問入浴介護事業

・利用実人員	8人
・訪問延回数	333回
- 4) 居宅介護支援事業（ケアマネジャー）

・担当件数	121人
-------	------

□地域福祉の拠点づくり

- 1) 浦河町社会福祉会館の管理
- 2) 関係機関・団体の会館利用への対応

□ボランティアセンター事業の推進

- 1) ボランティアセンター運営事業

・ボランティア団体交流会	32名参加
・ボランティア団体活動支援	
- 2) 各種養成研修事業

・中高生福祉体験活動	20名参加
・他市町村視察訪問	6名参加
・関連研修会・講座への参加	
- 3) ボランティア活動推進啓発事業

・情報誌の発行	2回
・福祉教育の推進	
①協力校への助成（町社協単独）	1校
②総合学習支援（出前講座の実施／3回）	

□各種団体の活動支援

- 1) 託老事業「愛の会」の支援
(実施主体：浦河町老人と共に歩む会)
- ①定期開設(毎月第3土曜日)
- ・延利用者数 198人
 - ・スタッフ参加延人数 271人
- ②出前愛の会(年1回)
- ・利用者数 5人
 - ・スタッフ数 17人
- 2) ふれあいサロンの支援
(実施主体：浦河ボランティア銀行)
- ・実施回数 3回
 - ・延参加者数 71名
 - ・延ボランティア数 39名

□地域福祉・在宅福祉を担うマンパワーの育成

- 1) ホームヘルパー養成講座への協力
- ・講師の派遣 6名
 - ・実技実習の受入れ 33名
- 2) 社会福祉現場実習生の受入れ 5日間

□地域福祉権利擁護事業の支援

- ※実施主体：北海道社会福祉協議会
- ・生活支援員数(町内) 5名
 - ・利用者数(町内) 47名
(うち、社協取扱い：16名)
 - ・保管書類等受渡件数 650件

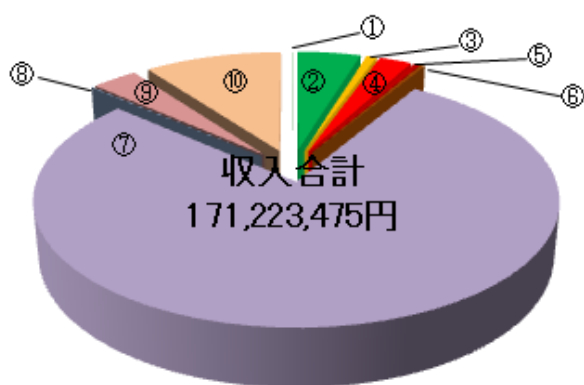
□自立と社会参加活動の推進(各団体の支援)

- ※社協が事務局を担っている団体
- 1) 浦河町老人クラブ連合会
 - 2) 身体障害者福祉協会浦河協会
 - 3) 浦河町老人と共に歩む会

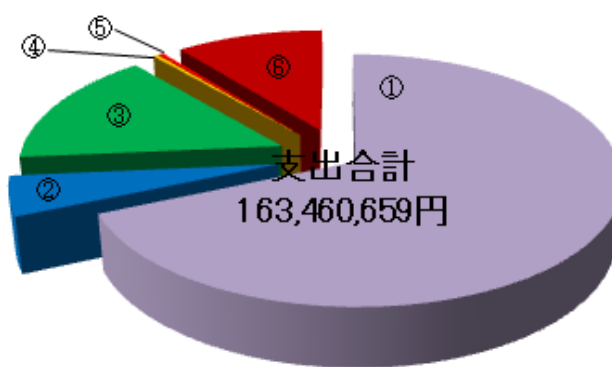
□その他の事業

- 1) 赤い羽根共同募金運動の協賛
- ①募金運動の実施
- ・募金運動期間 10月～12月
 - ・募金総額 1,579,836円
- ②各種団体・事業への配分(助成)
- 2) 生活福祉資金貸付事業
- ・新規貸付件数 5件
 - ・貸付(継続)世帯数 61件
- 3) 母子・寡婦福祉資金貸付事業
- ・新規貸付件数 14件
- 4) 浦河町母子等福祉資金貸付事業
- ・新規貸付件数 12件
 - ・貸付(継続)世帯数 24回
- 5) 介護機器等貸与事業
- ・車いす 38件
 - ・レジャー用長椅子 1件
 - ・歩行器 2件
 - ・シャワーチェア 2件
 - ・松葉杖 1件

※養護老人ホームの受託運営は平成21年度をもって終了となりました。当施設は本年度から「社会福祉法人浦河愛生会 養護老人ホームちのみの郷」として運営されております。



①社協会費収入	38千円	(0%)
②町補助金収入	8,035千円	(5%)
③助成金収入	1,291千円	(1%)
④町受託金収入	4,117千円	(2%)
⑤共同募金配分金収入	797千円	(0%)
⑥負担金収入	558千円	(0%)
⑦介護保険事業等収入	133,107千円	(78%)
⑧雑収入	107千円	(0%)
⑨会計単位間繰入金収入	5,790千円	(3%)
⑩経理区分間繰入金収入	17,383千円	(10%)



①人件費支出	111,955千円	(69%)
②事務費支出	8,281千円	(5%)
③事業費支出	24,692千円	(15%)
④共同募金配分金支出	615千円	(0%)
⑤負担金支出	535千円	(0%)
⑥経理区分間繰入金支出	17,383千円	(11%)

付記) 一般会計の経常活動収支のみ図示しています。

平成22年度事業計画

地域で安心して生活できるまちづくりを重点目標とし、地域住民の方々にご協力いただきながら、今年度の事業計画を推進していきたいと考えております。

- (1) 要援護世帯の把握と各関係機関との連携
- (2) 地域福祉ネットワークづくり
 - ・自治会福祉部の設置推進
 - ・小地域ネットワーク活動推進会議の開催
- (3) 広報誌などを活用して、地域福祉・在宅福祉に関する情報を提供しています。
- (4) 心配ごと相談所の運営
- (5) 介護保険サービス事業等の実施
- (6) 障害福祉サービス事業の実施
- (7) 高齢者生活支援等サービス事業の実施
 - ・生活支援サービス（給食サービス、通院・外出等支援サービス、軽度生活支援サービス）
 - ・電話サービス事業（受託事業）
 - ・高齢者等電話サービス事業（独自事業）
- (8) 地域福祉の拠点づくり
- (9) ボランティアセンター事業の推進
- (10) 住民参加型在宅福祉サービスの推進
- (11) 託老事業「愛の会」の支援
- (12) 「ふれあいサロン」の実施
- (13) 地域福祉・在宅福祉サービスを担うマンパワー育成の支援
- (14) 地域福祉権利擁護事業の支援
- (15) 託児グループの支援
- (16) 自立と社会参加活動の推進（各団体の支援）
 - 社協が事務局を担っている団体／浦河町老人クラブ連合会
 - 身体障害者福祉協会浦河協会
 - 浦河町老人と共に歩む会
- (17) その他の事業
 - ・共同募金運動の協賛（「北海道共同募金会浦河町共同募金委員会」の運営）
 - ・生活福祉資金貸付事業
 - ・母子・寡婦福祉資金貸付事業
 - ・浦河町母子等福祉資金貸付事業
 - ・介護機器等貸与事業

お問い合わせは
浦河町社会福祉協議会
(22-6800) までどうぞ

～在宅高齢者の交通事故を防止するために～

当社協では、この7月から夏の交通安全週間に併せて、日高振興局、日高地区交通安全推進協議会、浦河警察署、浦河町等と協力して、高齢者の交通事故防止の取り組みとして、在宅サービス（訪問介護・通所介護・居宅介護支援等）利用者に簡単な声かけ活動を行っています。

<取り組みを行う背景>

- 全道的に高齢者の交通死亡事故が全体の40～50%を占める
- 高齢運転者に起因する交通死亡事故が10年間で倍増している
- 歩行者、自転車利用者の総死者数のうち、高齢者の占める割合が7割に上る

こうしたことをふまえて…

関係機関の協力の下、訪問介護事業（ホームヘルパー）や通所介護事業（デイサービス）等の事業と連動させて、声かけやチラシ・夜光反射材の配布を通して、交通事故防止の呼びかけを始めました。

◆声かけの3つのポイント◆

- 1、車は急がずゆっくり運転しましょう！
- 2、出かけるときは夜光反射材を付けましょう！
- 3、道路を横断するときは車に注意しましょう！

介護が必要な在宅高齢者等に対して、交通安全意識を高める機会はまだ多くないのが現状です。過去には当社協の介護サービス利用者が交通事故の犠牲になったこともあり、今回関係機関と連携を図ることができたことは、その経験を糧にする意味でも大変有意義であったと思います。

今回の試みは決して特別なことではなく、当社協が日常的に推進している事業の中に「ちょっとした一手間」や「何気ない一言」を添えることで実施できたことです。

アイディアや工夫ひとつで地域に安心・安全をもたらすことができるという好例になったと実感するとともに、ご協力いただいた関係機関の方々に感謝の気持ちをお伝えいたします。

北海道新聞(平成 22 年 7 月 29 日)掲載【一】

ヘルパーが交通安全支援
浦河町社協 訪問先の高齢者らに

【浦河】高齢者の交通事故防止を目指し、日高管内浦河町の町社会福祉協議会のホームヘルパーが7月から、訪問先の高齢者に交通安全の呼びかけや夜光反射材の取り付けを行う取り組みを始めた。老人クラブに参加する河町社協に話を持ちかけた日高振興局などが浦河町社協に話をもちか

高齢者は安全講習などを受けて、実地した。町社会福祉協議会のホームヘルパーが、訪問先の高齢者に交通安全の呼びかけや夜光反射材の取り付けを行う。ヘルパーが、交通安全のチラシを配って注意を呼びかけたり、靴などに反射材を取り付けたりしている。ホームヘルパーから

担当のホームヘルパー（右）と、靴に取り付けてもらった夜光反射材を確認するお年寄り

宇田祥さん(52)は「生活に寄り添うヘルパーだからこそ、きめ細やかな対応ができる」と説明。日高振興局環境生活課の棟方寛司主査(46)は「お金をかけずに地域の力を活用する取り組みで、ヘルパーの協力は大変ありがたい」と話している。

ボランティアセンターからのお知らせ

ボランティアセンターは、笑顔あふれるまちづくりを目的にボランティア活動の推進を図るとともに、住民一人ひとりが心豊かに暮らすことができるように、さまざまな事業を行ってまいります。

今年度すでに実施した事業もありますが、これから予定されている事業も含めてご紹介いたします。

□□ふれあいお食事会・お話会

去る7月5日に、70歳以上のお一人暮らしの高齢者を対象にしたふれあいお食事会を行いました。町内を5つの地区に分けて、今回は市街地区（旭町・常盤町～緑町）の方々にご案内しました。

当日は参加者が15名、ボランティアも15名が会場に集まり、

季節感のある食事や楽しい話題で盛り上がりしました。

こうした「ふれあいサロン」の取り組みは、今後も年間3回を目標に開催いたします。



□□夏休み福祉体験活動

8月9日～11日にかけて、町内の中高生が社会福祉施設・機関での体験を行い、そのふりかえりとして参加者同志で意見を交わし合う内容で事業を実施しました。当日は29名の中高生が参加し、一人ひとりが学びや気づきを得て、帰路に就いたのではないかと思います。

この事業は平成9年度にワークキャンプ事業として始められ、その後事業の形態を変えながらも継続して実施しています。福祉教育の推進も社会福祉協議会の役割の一つですので、今後も若い世代を巻き込んだ事業展開を模索してまいります。



《今後の動きについて》

9月12日(日) ボランティア交流事業
「町内清掃活動」

町内で活動中のボランティア団体及び個人ボランティア合同で町内のゴミ拾いを行うとともに、交流を図ります。

すでに各団体にはご案内していますが、興味のある方はご連絡ください。

◇ボランティアセンターに登録しませんか？◇

ボランティアセンター（ボラセン）では、ボランティア登録者に毎月関連情報をお送りしています。すぐに何かを始めるわけではなくても、まず一度登録して仲間づくりをしてみませんか？

<各種お問い合わせは…>

浦河町ボランティアセンター（社会福祉協議会内）まで
【22-6800 または 22-9099 / 担当：石黒】

赤い羽根共同募金運動に関するお知らせ



来月から共同募金運動が始まります！

～毎年10月から12月が運動期間です～

来月 10 月 1 日から赤い羽根共同募金運動が始まります。
今年も寄付者はもちろんのこと、寄付を募る協賛員の方々のお力添えをいただきながら、地域福祉の推進を図ってまいります。ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、全国協調で定める共同募金運動要綱の改正を受け、今年度の運動開始に歩調を合わせて、これまでの「北海道共同募金会浦河町分会」から「北海道共同募金会浦河町共同募金委員会」に組織名を改称いたします。

その他の改正のポイントは以下のとおりです。

☆「配分」という表現を「助成」に置き換えます

「割り当てて配る」という意味をもつ「配分」という表現から、「事業の実施のために経済的に援助する」という意味をもつ「助成」に変更します。

☆「共同募金委員会」内に「審査委員会」の設置します

共同募金の公正な助成を担保するために「審査委員会」を設置します。



平成22年度共同募金助成金の使途（使いみち）

～今年度行われるさまざまな社会福祉事業に活用されています～

北海道共同募金会からの助成金

791,786円

助成事業名	主な助成先／事業内容	助成額
在宅老人支援事業	老人クラブ連合会、老人と共に歩む会、他	180,000 円
広報紙発行事業	社協だよりの発行	168,336 円
障害者福祉団体支援事業	身体障害者福祉協会、手をつなぐ育成会、点訳赤十字奉仕団、どんぐりの会	150,000 円
子供会等支援事業	子ども会育成会団体連絡協議会、青年会議所	180,000 円
母子会支援事業	母子寡婦三葉会	20,000 円
住民行事用テント設置事業	申請団体：浦河向陽園	93,450 円

収集ボランティアは、物品と共に一人ひとりのやさしさを集める試みです!!

収集ボランティア活動については、町内の各学校、老人クラブをはじめとして、さまざまな団体や個人の皆様が取り組まれています。特にリングプルの収集については、ここ数年かなりの成果をあげています。当社協の場合、ボランティア登録者と袋詰めを



行った後、江別市にある「リングプル再生ネットワーク（プルネット）」に送っています。その後、一定量がたまった段階で車いす等の介護用品に交換することができます。

浦河町にもたらされた介護用品は、一般世帯や地域の催事の際に貸出したり、移送サービス等で活用させていただいています。



《愛情銀行へのご寄付》

(平成 22 年 1 月～7 月取扱分)

社会福祉振興基金へのご寄付

・中神 鐵雄 様	20,000 円
・佐古 牧雄 様	50,000 円
・安藤 帝子 様	20,000 円
・大道みゑ子 様	20,000 円
・信岡 修 様	50,000 円
・室谷 芳子 様	100,000 円
・浦河町奥様預金協力店会 代表 鈴木 震一 様	372,095 円
・秋山 恵子 様	50,000 円

・白倉トミ子 様	50,000 円
・立石 俊雄 様	50,000 円
・(株)B・R・H サービス 金子 将士 様	50,000 円
・浦河ウエリントンホテル 様	8,283 円
・菊地 祥二 様	30,000 円
・吉田 貞夫 様	50,000 円
・北村 峰 様	30,000 円
・所司 佳久 様	30,000 円
・浦河赤十字看護専門学校奉仕団 (浦看祭実行委員会) 様	15,549 円

編集後記

初秋の候、皆様方はいかがお過ごしでしょうか。今年の夏は全国的に猛暑に見舞われましたが、その分夏らしさを味わう場面も多かったと感じています。いくつかの花火大会に赴きましたが、規模や客層に合ったそれぞれの良さがあると思えました。最近各地でお祭りの中止という話が聞こえてきますが、同じマチに住む者同志がつながりを確認するこののできる場として、大切に育んでいかねばならない営みだと実感しました。(いしぐろ)

本誌に関する問合せは…

社会福祉法人 浦河町社会福祉協議会

〒057-0024

浦河町築地1丁目4-38 社会福祉会館内

TEL : (0146) 22-6800

FAX : (0146) 22-6444